

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

野崎高校は、昭和 51 年の創立以来、生徒一人ひとりを大切にする学校、地域に愛され、信頼される学校をめざしてきた。その伝統を受け継ぎながら、さらに生徒のニーズや保護者の期待に応える学校となることをめざす。具体的には、下の三点に重点を置く。

- ◎生徒の自己実現を最大限に支援する学校
- ◎すべての生徒が安全・安心に生活できる学校
- ◎地域としっかり連携して生徒を育てる学校

人権教育をベースとした系統的なキャリア教育を行うとともに、きめ細かな学習指導、生徒の安全・安心につながる生徒指導を教職員が一丸となって行い、生徒や保護者に「野崎高校に入学してよかった。」と心から言ってもらえるような学校づくりを行う。

## 2 中期的目標

生徒の自己実現を図るための生きる力を育成し、一人ひとりの希望する進路を実現する。

## 1 確かな学力への取り組み

(1) わかる授業」「できる授業」により、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。

- ア 学力の定着向上を図るための組織的な体制を構築し、ICT機器の積極的活用、習熟度別授業やグループ学習等の授業形態や授業方法の研究を進め、系統的・効果的な教科指導の確立を図る。
- イ 授業評価や研究公開授業・内外の研修等を通して、教員一人ひとりの「授業力」を向上させる。  
※生徒の授業評価、学校教育自己診断における学習指導における指標の生徒評価を上げる。
- ウ 平成 27 年度 学校経営推進費事業による、「ICTを活用した授業」の充実を図るためHR教室に設置した短焦点プロジェクターの活用充実による授業改善の取組みを展開する。また、同事業により設置した、「オープンラボ」(進路閲覧と自習室機能)と職員室横に設置の質問できる「ミニサブリースペース」の活用のより進路実現達成度の向上を図る。  
※外部産業のテストにおける生徒の学力レベルを 29 年度までに 27 年度比で 9%向上させる。

## 2 卒業後の進路を見据えた 3 年間のキャリア教育・進路指導の実施

- (1) 生徒の社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成するためのキャリア教育プログラムを実施する。  
ア 3 年間を見据えたキャリア教育計画の改善に取り組み、平成 28 年度末には計画を完成する。
- イ 地元企業や大学、専修学校等との連携を一層進め、インターンシップや学校訪問等により生徒の進路意識の向上を図る。  
※学校斡旋による進路決定率は常に 100%を目標とする。理由のない進路未決定率は常に 0%をめざす。

## 3 高校生として必要な規範意識や社会性・人権尊重の精神や自尊感情の育成に努め、中退防止を図るとともに、すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくりを推進する(平成 28 年度学校経営推進費事業による「生徒全員 Light Up! 作戦」を学校の課題に総合的に取り組む「Jump Up! pt」を中心に推進する。)

- (1) 家庭や地域と連携した遅刻指導、服装指導、挨拶・マナー指導等を通して、生徒の規範意識や自律心を育成するとともに、教育相談体制のさらなる充実等により、不登校や中途退学や問題事象につながる事象の早期発見早期対応につなげる。
- (2) 人権教育や総合的な学習の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神の育成を図る。
- (3) 学校全体で生徒のコミュニケーション力を向上させる取組みを充実させるとともに、部活動、生徒会活動を活性化し、自立心や主体的に行動する態度を養う。
- (4) 教職員の資質向上のための研修体制の充実を図る。  
※平成 30 年度までに、学校教育自己診断の「マナーや校訓を守っている」「学校はいじめ、差別に対して適切に指導している」「人権や命の大切さについての教育が行なわれている」の項目をすべての学年で 85%以上とする。  
※平成 30 年度までに、学校教育自己診断の「遅刻指導、頭髪・服装指導は適切である」の項目をすべての学年で 80%以上にする。  
※平成 30 年度までに生徒の卒業率・進級率を 9%向上、中途退学者数を 9%減少させる。  
※平成 30 年度までに学校教育自己診断の「学校へ行くことが楽しい」「担任以外に相談できる教員がいる」の項目を 73%以上にする。

## 4 地域と連携した信頼される開かれた学校づくりのさらなる推進

- (1) 里山保全ボランティア事業、地域清掃ボランティア活動を核として、地域の小中学校や大学、関係団体等と連携した学校づくりを進める。
- (2) 連携の強化のために、PTA、交友会、同窓会の協力を得て、学校行事を充実させる。
- (3) 広報体制を確立し、生徒の活動の様子や学校の取組みを学校ブログやホームページ等により、継続的に地域へ発信する。  
※平成 30 年度までに学校教育自己診断の「学校の情報はホームページやブログでわかりやすく提供されている」の項目を 70%以上にする。  
※首席を中心とした広報チームによる、組織的な中高連携を推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>生徒:</b> 肯定的評価の高い項目は前年度と大きな変化はなく、「規範意識」(H27 81.7、H28 82.8)が唯一 80%を超えた最高値となり、修学旅行、遠足、人権教育、体育大会、授業態度、入学満足などが 70%台で続いている。規範意識をトップに行事や授業・入学が上位に入るのは、高校入学前より努力して頑張っている、改善できている、と生徒が本校で自覚できている現れである。一方でHPやブログが最低値となり、生徒にはHPやブログの公式な情報より、SNSによる友達間での情報共有が広がっていると考えられる。</p> <p><b>保護者:</b> 最高値は「遅刻指導」(84.4%)、入学満足、担任相談が続き、本校の指導や対応への理解が伺われる。昨年度と比べ最も増加した項目は「一人ひとりを大切に」(74.4% 9.7%増)であり、体育大会 6.8、いじめ・差別 5.7 が次に続き、本校の取組みに対する理解と言える。反対に大きく減少した項目は見当たらない。</p> <p><b>教職員:</b> 24 項目中肯定的評価が高いのは ICT 機器活用と生徒会活動の 2 項目で、近年の本校の取組みを反映している。一方で多くの項目で昨年度より低い数値が出たが、現在進行中の学校改善に向けた研修や取組に教員が真摯に向き合い表現した結果だと考える。</p>	<p><b>第 1 回 平成 28 年 6 月 22 日(水) 実施</b> ○学校より、平成 28 年度学校経営計画、学校経営推進費の活用、生徒指導、進路指導、人権教育、広報、本校の課題と今年度の目標、取組みについて説明。 ○協議の中では、2 年連続獲得できた学校経営推進費の活用が話題となり、自尊感情を育てることの重要性や気軽に勉強や質問ができるスペース作りなど学校の種々の取組みが線になりつながっていることが確認された。</p> <p><b>第 2 回 平成 28 年 11 月 25 日(金) 実施</b> ○学校より、平成 28 年度学校経営計画の進捗、学校経営推進費の活用状況、平成 29 年度の使用教科書と入学者選抜の概要、生徒指導、進路指導、授業改善の取組み、広報活動について報告。 ○協議の中では、授業見学の様子も含めて、生徒主体の取組みや地域との繋がりを大切にしている姿勢、学校の雰囲気明るく安心して生徒を見ていられる点など、授業アンケートの結果からも、「人を創る野崎」「情や人懐っこさ」を大切にしたい学校づくりを提言していただいた。</p> <p><b>第 3 回 平成 29 年 2 月 23 日(木)</b> ○学校が頑張っているのがよくわかった、若い時はチャンスなので失敗を恐れずどんどん頑張してほしい。そして学校の目標に向けてベクトルを合わせてほしい。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取り組み	(1)「わかる授業」「できる授業」により、基礎的・基本的な学力の定着 ア 授業改善の取り組みを進める イ ICT機器等の積極的活用	(1) ア 首席を中心に「授業力向上ミーティング」を開催し、授業評価や基礎力診断テストの結果を踏まえた授業改善に取り組む。また、研究公開授業や内外の研修また、地域の中学校との研究等を通して、授業形態・授業方法の研究・改善に取り組む。 イ ICT機器や視聴覚機器を積極的に活用し、授業への集中力を高める。ICT活用促進のための研修を実施する。その際、積極的に活用している教員を講師とするなど、相互の教員力向上を図る。 ウ H27 学校経営推進費事業により、HR 教室に短焦点プロジェクターを設置し授業改善の取り組みを展開。また、進路閲覧と自習室機能を合わせもった「オープンラボ」と質問できるスペース「ミニサブリ」を整備する。	(1) ア・生徒による授業評価において、満足度・達成感を65%以上 (H27 63.5% 63.7%) ・生徒向け学校教育自己診断における「授業は分かりやすい」を65%以上 (H27 61.3%) イ・技術段階別の、ICT活用研修を実施する。 ウ・外部産業のテストにおける生徒の学力レベルを3%向上させる。	(1) ア・生徒による授業評価「満足度・達成感」 (H28 満足度 63.5%・達成度 64.6%) (△) ・生徒向け学校教育自己診断「授業は分かりやすい」 (H28 59.5%) (△) イ・教員による ICT 活用研修技術別に実施。 (○) ・昨年度の HR 教室へのプロジェクター設置の伴い、一部使用を含めるとほとんどの授業で ICT 活用を実施。今後は ICT 活用の方法について更なる研究が必要。 ウ・外部産業テスト結果 (◎) 40 期生 1 年次から 2 年次=18.9%がアップ 39 期生 2 年次から 3 年次=34.6%がアップ
2 キャリア教育・進路指導の実施	(1)一人ひとりの進路実現をめざすキャリア教育プログラムの実施 ア野崎版キャリア教育プログラムを実施 イ データの共有や活用、生徒の状況を適確に把握。 ウ 進学補講等の取り組みを充実	(1) ア・1 年次からの系統的なキャリア教育プログラムを実施。 ・地元企業や大学、専修学校等と連携し生徒の進路意識の向上を図る。 イ・学年団と進路指導部との情報交換会を一層きめ細かく行い、外部講師等を活用した研修会を開催する。 ウ 系統的な進学補講等の充実を図る。	(1) ア・自己診断の「きめこまやかな進路指導」の項目の肯定率を70%以上 (H27 生徒 65.7% 保護者 66.9%) ・学校幹旋による就職内定率を100% (H27 100%) ・理由のない進路未決定率 0% (H27 1%) イ・進路にかかる相談会を年間3回開催する。 ウ・生徒の実態やニーズ別に実施する。	(1) ア・自己診断の「きめこまやかな進路指導」の項目の肯定率 (H28 生徒 66.3% 保護者 72%) (生徒△、保護者○) ・学校幹旋による就職内定率100%に向け対応 ・理由のない進路未決定率0%に向け対応中 イ・中小企業家同友会や商工会議所と連携した進路講座、専修学校と連携した講座、学年別の進路を考える見学会や希望職種の体験会等を実施。 (◎) ウ・教科ごと学年ごとに実施 (○) 今後は中長期的な生徒の育成視点から学校総体として実施できるよう、工夫していく。
3 防止を図るとともに、すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくりを推進する	(1)規範意識や自律心の育成 ア集団生活に必要な規範意識とマナー向上を図る。 イ 中退防止に向けて組織的に取り組む。 (2)他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神の育成を図る。 ア 生徒の自信や自己有用感を高める活動を工夫する。 (3)自立心や主体的に行動する態度を養う。 ア 学校行事の工夫改善 イ 部活動の活性化 (4)教員の研修体制の構築を行う。 ア ミドルリーダーを育成する。 イ OJT を基本とした実践的な研修を計画的に実施。 ウ内外の研修参加による資質向上。	(1) ア・授業規律指導、朝及び授業遅刻指導、服装髪指導等を全校で徹底して行う。 イ・就学対策委員会、教育相談委員会等における情報共有や外部機関との連携を通じ、中退防止に向けて組織的に取り組む。また、配慮を要する生徒に対して、一人一人の状況に応じたきめ細やかな指導を行う。 (2) ア・1 年次の早い時期に「仲間づくり」や「言葉づかい」等、コミュニケーションを豊かにするためのプログラムを実施。 ・キャリア教育プログラムとの連動により、体験活動を取り入れた人権教育を推進。 (3) ア・生徒の自立心を養い、主体的な行動力を高めるような、行事のあり方を工夫。 イ・生徒会が中心となり、部活動や里山ボランティア事業への積極的な参加を促す。 ・新入生体験入部の取り組みを強化する。 (4) ア・中堅教員に、積極的に学校運営に参画させるとともに、分掌、学年等の組織の長として学校を牽引させる。 イ・「フレッシュパーソンズ研修 (FP 研修/新転任教員研修)」をさらに充実させるとともに、中堅教員は講師とし相互の育成を図る。経験の少ない教員に対しては、学校説明会、地域行事等に積極的に参加させる。 ウ・府教育センターの研修や、地域の中学校と連携した研修、行内研修により継続的な教員の資質向上を図る。	(1) ア・遅刻回数を20%減 (H27 12512 回) イ・卒業率・進級率を3%向上、中退者数3%減 (2) ア・自己診断の「マナーや校訓遵守」「人権や命の大切さの教育」の項目を80%以上 (H27 81.7% 78.3%) (3) ア・生徒主体の学校行事等を更に推進する。 イ・部活動の加入率を33%以上に (H27 32%) ・里山ボランティア参加生徒 18 名以上 (H27 16 名) (4) ア・中堅教員を積極的に学校運営に参画するポストに任命するとともに野崎高校の今後を見据え総合的に検討していくPTを立ち上げる。 イ・新転任教員は、学校説明会、地域交流行事、里山ボランティア、出前授業等に参加する。 ・FP研修の内容充実。中堅教員の講師活用。 ウ・教育Cのフォローアップ研修に、対象期間内に必ず受講させる。校内研修を年間2回、公開授業を2回以上実施。	(1) ア・遅刻回数 H28 10424 回 (△) ・今後は「厳しく」だけでなく、総合的な生徒指導の中でさまざまな取組みを考えていく必要がある。 イ・卒業率 0.7%増、進級率 0.8%増、中退者数 0.6%減 (△) (2) ・自己診断「マナーや校訓遵守」 (H28 生徒 82.8%) (○) 「人権や命の大切さの教育」 (H28 生徒 74.4%) (△) (3) ア・文化祭・体育祭はもちろん体験入学会や等においても企画・当日運営とも生徒会をはじめとする生徒主体で実施。 (○) イ・部活動参加率 34.1% (○) ・里山ボランティア参加生徒 14 名 (△) (4) ア・中堅教員を首席や学年主任、分掌長に任命するとともに、昨年度学力向上をベースに立ち上げた JumpUp!PT を、総合的な野崎高校の今後を考える PT と位置づけた。また PT 人数が多いため、PT コアメンバーによるサポートチームを作りコントロールするなどにより、PT が活性化した。 (◎) イ・学校説明会 (7 月、11 月、1 月、2 月)、地域交流行事 (5 月、6 月)、里山ボランティア (月 2 回)、中学校への出前授業 (7 月)、地域中学校の学びあい研究 (通年) などに新転任教員が参加した。 (◎) ・FP研修は本校教員を講師としたピアサポート研修や新たな取組みを行った。 ウ・経験 2～4 年目の教員 9 名全員がフォローアップ研修受講。 (○) ・教育庁支援による「診断支援研修」を、5～10 年の教員 25 名と首席 2 名をリーダーとして実施。学校の課題別に 3 チーム 4 グループに別れそれぞれのテーマにおいて課題解決のための方策を考え、できることから実施。研修成果を来年度の学校経営計画に反映することとしている。 (◎) ・全体を対象とする校内研修は、教育センターのパッケージ研修 (計 3 回)、人権研修、ICT 活用研修、ICT の課題についての研修、舞台活用のための研修、SSW・CC によるキャリア教育研修等を考査期間中を中心に実施。 (◎) ・校外で行われる研修にも、地元中学校と連携した研修や、東京での心理カウンセラー研修、ユニセフ研修、その他多くの研修に多数の教員が参加。その後伝達講習をするなど共有化もはかった。 (◎) ・相互の授業公開「オープンクラス」を、事前に授業内容や使用機器を公開し積極的に実施できる形を整えたとともに、期間にかかわらず相互の授業公開ができる状況を作っている。 (◎)

## 府立野崎高等学校

<p>4 地域と連携した信頼される開かれた学校づくりのさらなる推進</p>	<p>(1) 地域と連携した学校づくり ア 里山保全ボランティア事業、地域連携の充実。 (2) PTA、同窓会との共労 ア 共労による行事等を充実させる。 (3) 広報体制を確立し、情報発信を積極的に行う。 ア 首席を中心とした広報チームの充実を図る。 イ 情報発信するエリアを拡大する。 ウ 発信する内容を学校全体で組織的に充実させる。</p>	<p>(1) ア 里山ボランティアへのさらなる参加。 ・地元保育園や小中学校等と連携した行事への参加促進。 ・地域担当による教職員への働きかけや実践報告を充実させる。 (2) ア ・PTA、交友会（PTAのOB会）や同窓会との協働により行事を実施。 (3) ア ・HPの充実、ブログの定期的更新や中学校訪問など、情報発信等を積極的に行う。 イ ・中学校訪問、中高連絡会、体験入学会、学校説明会、授業公開等の広報活動を充実させる。 ウ ・広報活動を学校全体で組織的に行う。</p>	<p>(1) ア 参加生徒数、教員数を増やす。(人数は3(3)イに記載) ・地域連携行事等での実践報告の実施 (2) ア 生徒の進路支援につながる行事を創設。 (3) ア 首席を中心とした広報チームが中心となって広報活動を充実する。 ・公式ブログは随時、HPは定期的に更新。 イ 体験入学会を生徒主導とする。 ウ 広報活動を様々な形態で全職員が行う。</p>	<p>(1) ア 参加生徒数 13 名 ・文化祭での活動報告 ・実践内容を情報誌クローバーで報告 (○) (2) ア PTA、交友会、同窓会等との協働による進路支援行事は創設できていない。 (△) (3) ア 首席を中心とした広報チームにより、学校説明会資料の刷新等広報活動の充実を図った。(○) ・HP は定期的に、公式ブログは、修学旅行のリアルタイム発信など、随時更新した。(○) イ 体験入学会において、生徒主導の新たな取組みとして、オープニングセレモニーを開催しバンドやダンスで中学生を迎え、アンケート結果からも好評だった。(○) ウ 一般的な広報活動に加えて、地域おこしの行事に参加したり、地域中学校が実施される授業作りに積極的に参加し、研修としての成果だけでなく、生徒の様子をお伝えしたり中学生の様子を教えていただいたり、相互の理解が高まる機会を意図的に増やした。(○)</p>
---------------------------------------	---	---	---	---